

# 商業施設や他の交通モードと連携した グリスロ運行による外出促進や 健康増進効果の検証



## Profile

会社名（法人等名）、 地方公共団体名等	三田市役所
所属部署名 氏名	交通まちづくり課 大脇 直登
出身地	宮崎県
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代モビリティ推進</li> <li>・高齢者の外出支援推進</li> </ul>
所属部署での業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通に係る政策の企画立案及びその推進に関すること</li> <li>・高齢者の外出交通手段の支援に関すること</li> <li>・課の庶務に関すること</li> </ul>
現職に至るまでの経歴	<p>入庁してから税務、国民健康保険、公民館等窓口部署を中心に、市民と身近な職場を経験。</p> <p>令和2年度から交通まちづくり課に配属。</p>
担当として関わるきっかけ	<p>令和2年度に交通まちづくり課として配属。</p> <p>令和4年度からは、交通まちづくり課交通企画係の係長として、地域交通課題の解決に向けて業務を推進。</p>
プロジェクトに関わった中で 印象的な事例	<p>今回の実証実験では、様々な主体がそれぞれの役割（グリーンスローモビリティの運行、車両提供、商業施設からのクーポン発行、各イベント開催等）に応じて、ひとつのプロジェクトとして連携しながら進めることができた。</p> <p>それぞれの得意分野や強みを活かしながら、グリーンスローモビリティの運行を終えることができた点がよかったと考えている。</p> <p>移動のターゲットとしている移動に不安を抱える高齢者の関心をひくために、アシックスプログラムの活用やフレイル予防教室、スマホ教室等を実施したが、関心や期待の度合いが参加率に反映されているように感じた。</p>
自由記入欄	<p>地域における移動手段の確保は、現在不安に感じている人だけでなく、5年後など少し先に不安を抱えている人に対しても必要なものだと考えています。</p> <p>移動はあくまで移動であって、それ自体が目的になることはありませんが、その先の買い物や通院、観光等に、車であれグリーンスローモビリティであれ徒歩であれ必ず伴うものです。</p> <p>それぞれのライフステージによって使い勝手のよい移動手段は異なると思いますが、今回の実証実験での結果を踏まえて次につなげていきたいと思っています。ゆっくりした乗合の車がまちなかの移動手段の選択肢のひとつとして当たり前的手段になり、結果としてまちの流動性が高まり、まちが活性化されることを期待しています。</p> <p>行政だけでなく、地域、交通事業者、商業施設等と一緒に役割分担しながら取組みを続け、移動に対して不安なくお出かけできるような住みやすいまちになっていけばよいと思います。</p>